

マーケットの動き (2023年2月6日～2月10日)

先週の国内債券市場は、前週末比で金利はほぼ横ばいとなりました。

欧米金利の上昇に加え、日銀次期総裁の後任人事発表を前に今後の金融政策修正に対する警戒感が高まっており、国内長期金利に上昇圧力がかかりました。一方、定例の国債買入れオペの実施や共通担保資金供給オペの通知が金利上昇圧力を和らげたことで、国内長期金利は前週末と同水準で週を終えました。

クレジット市場は、昨年から続く軟調な需給環境により利回り水準が上昇したことを受け、投資家の利回り確保ニーズが強まりました。

投資環境見通し (2023年2月)

国内長期金利はレンジ内での動き

日銀による長期金利の許容変動幅拡大の決定以降においても債券市場の機能不全や歪みが続く中、金融政策の正常化観測を背景に金利の上昇圧力が続くともみています。ただし、共通担保資金供給オペの拡充は金利の上昇圧力を和げるとみられることから、国内長期金利は0.3%～0.5%程度のレンジ内で推移するとみています。日銀の正副総裁人事に対する注目度が高まる中、政府の人事案提示など、今後の動向次第で変動率が高まる可能性もあるとみています。

	2月10日	変動幅 (騰落率)			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
10年国債利回り (日本、%) (変動幅)	0.50	0.00	▲0.00	0.32	0.28
NOMURA-BPI総合 (騰落率)	366.71	▲0.36%	0.31%	▲3.37%	▲3.88%

※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日(休日の場合は前営業日)までとします。

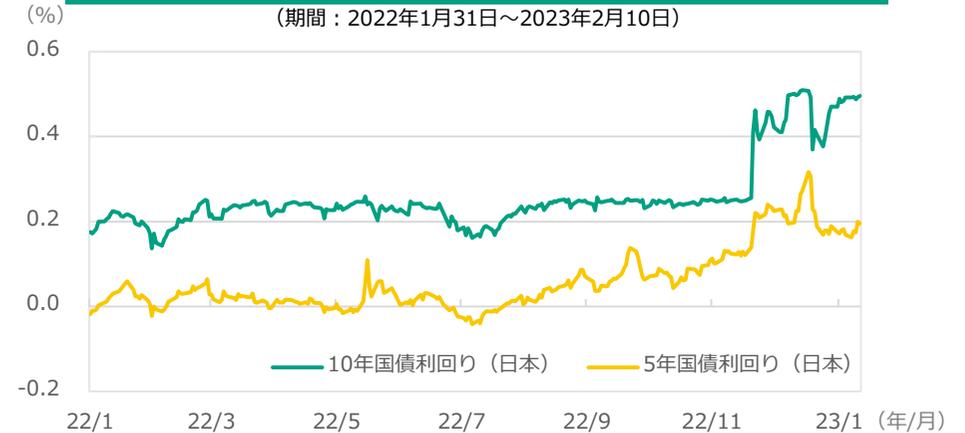
※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202302_outlook.pdf

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し(総合)の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

日本国債利回りの推移

(期間：2022年1月31日～2023年2月10日)



NOMURA-BPI総合指数の推移

(期間：2022年1月31日～2023年2月10日)



※2022年1月31日の値を100として指数化

※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成